

震災から2年以上が経ち復興が少しずつ見えてきたところもありますが、かなり地域格差があるのが現実です。今回の震災の被害は広さと深さが桁違いに大きいことを思い知らされます。粘り強く前に進もうと努力している浜の皆様の様子を現実現場現在の三原則に徹して多くの皆様にお伝えしますので応援をよろしくお願いいたします。

ガールスカウト栃木県連盟石巻・門脇地区お花いっぱい大作戦

ガールスカウト栃木県連盟では優しい心を持ちリーダーシップの取れる人材を育成しようと私たち龍JINと協力して東北のボランティア活動に取り組み、軌道に乗ってきました。活動を「石巻・門脇地区お花いっぱい大作戦」と命名し3月30(土)～31(日)、第一弾として花壇づくりを行いました。津波被害の門脇地区は塩害にも阻まれ花が咲きません。土づくりから始めないと咲かないのです。

ガールスカウトはこれらの問題を情熱と愛情で乗り越えました。土は栃木から建築業の有志の応援で運び込みました。花壇もハート型にして「心と心 手と手をつないで心寄せ合う 結(ゆい)づくり」そのものの花壇になりました。第一弾で花壇のみをつくり第二弾6月22日～23日に苗を育てて植えに行く計画でしたが、素晴らしい花壇に花が余りにも少ないため急きょ一部先行して植えました。しかも「結(ゆい)」の花文字が実現しました。何もない荒涼とした門脇地区に突如として現れたこの花壇はとても際立っています。現地の皆様に勇気と元気をもたらすものと思います。ガールスカウト栃木県連盟の実行力の凄さに驚かされました。



太平洋↓

荒涼とした門脇地区に♥の花壇



尾形さんの家↓

栃木から運んだ土



完成を喜んで

門脇の「花ロードプロジェクト」について

石巻市門脇中の生徒たちが石巻の復興につながる活動として母校門脇小の近くで、絆をテーマにした花壇づくりを自分たちの提案で始めました。

花壇づくりの当初の計画は、被災した母校の校庭に花を植えるというものでしたが、学校の解体整備計画があるため断念しました。先生たちは何とか生徒たちの想いを形にしたいと奔走し、震災前に学校近くで食堂を営んでいた焼きそば味平の尾形さんの駐車場跡地を借りることになりました。

尾形さんも花壇づくりを成功させたいと考えていたのでとても嬉しかったそうです。

世界的なNPO法人JENが本活動を全面的にバックアップしてくれることになり約500mの花ロードをつくろうと夢が膨らんでいるプロジェクトです。

門脇中の「咲かせよう勇気の花」花壇が西端で、東隣にガールスカウト栃木連盟のハート花壇ができました。このプロジェクトの話をJENから聞いた時、「せっくなので全国に呼び掛けて多くの地域支援の花ロードにすれば門脇のみなさんがさらに元気になるのでは」と提案しました。JENは検討しますということでしたが3番目に東京都のチーム小平が名乗りを上げてくれ、その後も増えているそうです。全国からの応援で素敵な花ロードが完成する予感がします。



門脇地区の花ロード計画



ガールスカウト♥の花壇と看板



「門脇♥花の種育て咲かそう大作戦」活動に地元那須烏山市立全小中学校が賛同

門脇地区の尾形さんから全国から贈ってもらった花の種がたくさんありそのまま蒔いても枯れてしまうので種から育てて植えに来て欲しいと頼まれました。たくさんの花の種を栃木に持って帰って先日実施した震災2年の集いに参加された方々に趣旨を説明して渡しました。

そして、私の地元那須烏山市の全小中学校が趣旨に賛同し学校を挙げて取り組んでくれることになりました。この活動を「門脇♥花の種育て咲かそう大作戦」と命名し6月22日～23日にガールスカウトも含めてみんなが一緒になって自分で育てた花の苗を植えに行く計画にしました。その日には門脇中の生徒たちと交流しながらの活動になるように調整しますとJENの担当者が約束してくれました。とても楽しみです。



荒川小学校で育てている花の苗 5/24

わかめ作業のお手伝いボランティアに参加してきました

「漁業復活の要である牡鹿・小湊浜でわかめの作業者が集まらなくて困っているんです。何人でもいいのでボランティアに来て欲しい」と「It's Not Just Mud」という石巻市渡波に拠点のあるボランティアチームから連絡がありました。It's Not Just Mudは「泥出しばかりでないよ」という意味で代表の石川雅枝さんを先頭に今なお支援活動を続けていて外国人ボランティアがとても多いNPO法人です。



ほとんどが外国人ボランティアの現状

日程を調整し4月11日～13日の2泊3日で妻と参加してきました。

東北の被災地に行く時はうちの無農薬野菜を持って行って欲しいと市内で帰農志塾という完全有機農業塾を親の代から続けている戸松正行さんからたくさんのネギをいただきました。とてもありがたい申し出に勇気と元気をいっぱい積み込み出発することができました。



戸松さんと塾生～戸松農園で



門脇の尾形さんにも届けました

活気が戻ってきたわかめの浜・牡鹿小湊浜

牡鹿地区小湊浜は日本で1～2位を争うほどわかめの出荷量が多い浜ですが、津波被害の爪痕は破壊された家がそのまま残っているなど至る所で見られます。しかし、船から水揚げされたわかめを加工したり、メカブの部分切り落としたりの作業に多くの人が携わっている光景に驚かされました。まぶしいほど活気に溢れていました。2日間で3軒の家のわかめ作業を手伝いました。休み時間に話してくれる津波の悲しい出来事は痛ましいものばかりですが、何としても前のような生活を取り戻したいと話してくれる浜の人たちの姿に勇気づけられました。



多くの働き手で活気が溢れている

ボランティア活動と仕事の棲み分けの矛盾

わかめ作業の様な仕事はボランティアとしてお手伝いすると働き口を奪うため原則としてボランティアセンターでは斡旋しないことになっています。

しかし、働き手が圧倒的に不足していてアルバイト等で集まった人数に合わせて水揚げを制限せざるを得ないのが現実です。しかも個人経営なので人手を集められる能力に差が出ます。さらに大黒柱を亡くした家もあったりと人手の確保には30軒以上あるどの家でも苦労していました。



現在、牡鹿地区は既にボランティアセンターが閉所しています。 **メカブの作業中→**

「It's Not Just Mud」の様なNPO組織が個人的な人間関係で支援しているのが現実です。どの家の応援に行っても何でうちには来てくれないのかという苦情にNPO代表の石川さんは心を痛めているそうです。多くの働き手が浜に戻って早く昔の状況になることを願うばかりです。

「橋本ごはん」の橋本信子さんとの出会い

石川代表が気を遣ってくれてボランティア業界で有名な橋本ママこと橋本信子さんと調整し私たちを彼女の夕食会に招待してくれました。

橋本さんはボランティアに来てくれた人に私財をなげうって食事を作り続けた人で延べ5000食にも及んでいます。彼女の凄さは食数もさることながら料理の美味しさにあります。そして何よりも

ボランティアの人たちに喜んでもらえることが楽しくて楽しくてしょうがないと言っていることにあります。ご主人も同様に笑顔で迎えてくれるのです。詳細は橋本信子さん著「石巻ボランティアハウスの橋本ごはん(セブン&アイ出版)」を読んで橋本ママご夫妻の素晴らしさを実感してください。

当日は戸松さんの無農薬ネギをおみやげにお伺いしまし



橋本さんご夫妻と著「橋本ごはん」



豪華な橋本ママの食事

たが本の紹介の通り信じられない美味しい料理にびっくりさせられました。素敵なお夫妻と友だちになれて宝物がひとつまた増えた思いでした。

英国人キャロラインが制作した立派過ぎるほどのバス停

牡鹿半島南端鮎川浜手前の大原浜に差し掛かった時、右下写真のバス停が突如として建っていることにびっくりしました。夢新聞前号で紹介した英国人キャロラインさんが素敵なバス停を計画していることを聞いていましたがとうとうできたのかと嬉しくなりました。バス停の中に入っても浜の人たちへの心遣いがたくさん詰まった飾り付けに心がぽっと温かくなりました。隣にハートマークの家もできていましたが、実は津波で亡くなった人の漁具倉庫だったそうで可愛らしくデザインした絵が彼女の心遣いを感じます。大原浜の石森区長は「大原浜ではみんなキャロラインが大好きなんだ」と言っていたことが頷けるプレゼントでした。



キャロラインさん



素敵なバス停とハートマークの家

復興応援牡鹿・金華山バスツアー

牡鹿地区は金華山やコバルトラインから見るコバルト色の美しい海等の自然美と豊富な海の幸の観光資源で成り立っている地域です。12人乗りの暫定船ではあるけれど予約をすれば金華山に行けるようになったことと12年に一度の金華山神社大祭の年に当たるという好条件になったことを鮎川浜の区長さんから教えてもらいました。多くの人に震災2年後の状況と浜の人たちの頑張っている姿、そして素晴らしい牡鹿半島の魅力を味わって欲しいと願って復興応援牡鹿・金華山バスツアーを企画し募集を掛けました。



金華山は季節外れの雪でした

- 2/5 -

金華山まで行き現地の人と交流し、仮設店舗で買い物をするには1泊しないと成立しないので、ずっと応援してきた民宿泰平荘に宿泊する計画にしました。泰平荘は上限が20名です。私と妻は廊下で寝ることを覚悟して23名で計画しました。

荻浜で採り立てわかめを購入ながらの交流会は風が強くて船が出せず交流会のみとなてしまいましたが、浜の皆さんが温かく迎えてくれた楽しい時間を過ごすことができました。

牡鹿のれん街ではいつも充実の買物を楽しめますがちょっとPR紹介します。

どこの仮設店舗よりも断トツ安くて新鮮です。

理由は簡単です。漁師の方にその日獲ったものを直接持ってきてもらい売っているからです。

200円でウニをその場で食べさせてくれたり、生きているシラスもそのまま食べさせてくれたりと時期によって異なりますが例を挙げると枚挙にいとまがありません。

ツアーの目玉である金華山は季節はずれの雪と風と大波の中でした。欠航の心配をしましたが何とか船を出してくれました。

12人乗りの高速艇はまるでデズニーランドのアトラクションと



笑顔で迎えてくれた荻浜の皆様と

壊れたままの
金華山の岸壁



同じ状態で波をぶっちぎりながら走りましたが参加者は小学生の童心に返った状態でした。

金華山は地震の被害が大きく至るところが崩れたままの状態でした。

当日、金華山ではボランティア活動日であったためたくさんの人が悪天候の中、金華山神社に泊り、がけ崩れや埋まった土を掻き出す等の作業をしていました。神社(宗教法人)なので行政の復興予算がつかずボランティアの皆さんに助けてもらっていますと宮司さんが話してくれました。

金華山神社では龍 JIN メンバーとしてご祈禱していただきました。笛や太鼓に簫(しょう)の生演奏で巫女さんが舞を踊ってくれました。大祭ということでご神体の弁天様を特別開帳してくれたりと至れり尽くせりの対応に感激してしまいました。



丁寧且つ親切に対応していただいた金華山神社宮司さん

泰平荘ではいつも恐縮するばかりのおもてなしで迎えてくれます。料理の内容も説明しきれないほどで参加者全員がため息をつくほどでした。

皆さんもぜひ家族で訪れてください。

今回は1泊2日のツアーでしたが5か所で交流会を設けたことで多くの皆様が心の交流という充実した時間になったことと牡鹿半島の食べ物と自然美を堪能したことを感想文に書いてくれました。

5月連休から金華山には70人乗りの定期船が運航することになりました。そして眺めが最高のコバルトラインの復興もあと少しと聞いています。少しずつではあっても牡鹿半島に観光客が増えることを期待しながら帰路に就きました。



圧倒される海の幸の料理を前にして JA のトマトをお孫さんに渡す若者代表

最後に

被災地の状況や生の声を皆様に知って欲しいと願い発信し続けています。辛い状況は余り変わってはいないまでも復旧工事が小さな漁村まで伸びてきていることが感じられ浜の人たちの気持ちを明るくしています。被災地の人たちにとって一番嬉しいことは現地に来て美味しい海の幸を食べ自然美を堪能し浜の人たちへの応援の一声を掛けてくれる人と会えることです。ぜひ皆様も行動する応援者になってもらうことを期待します。次号以降の報告も楽しみにしてください。

参考添付写真：金華山ツアーに組み入れて立ち寄った泊浜と女川漁港の様子です

泊浜



女川漁港



復旧工事の難しさで大好きな海を説明する平塚さん

久し振りの女川漁港は更地後、ほとんど変化がない